

(公社)日本給食サービス協会会長賞

『ぼくを変えてくれた給食』

神奈川県横浜市立駒岡小学校 五年二組 男子 佐竹 光樹

ぼくは、生まれたころから卵と小麦のアレルギーがあります。そのため、食べられる物が少なく大変でした。なぜなら、パンやうどんが食べられませんが、また、小麦や卵を使った加工品も食べられないので、スーパーでの買い物や外食ではとても気を使います。入学した当時は小麦と卵の料理を全て除去しなくてはならなかったため、食べられる給食が半分くらいでした。でも、栄養士の先生がみんなと同じ給食に近づけようと工夫してくれました。たとえば、カレーは小麦粉なしのサラサラ仕上げにしてくれたり、ミートソーススパゲティの日は、家からお米のめんであるフォーを持っていき、小麦粉をぬいたソースを用意してくれてみんなと同じようなものが食べられるようにしてくれました。調理員さんもぼく専用メニューを一生けん命作ってくれました。ぼくは、たった一人のためにこんなにもたくさんの方ががんばってくれているのだと思うと、とてもうれしくなりました。

お母さんも、栄養士の先生と手紙でやりとりして、毎月の献立で食べられるもの、食べられないものをチェックしてくれました。パンの日はごはんを、フライの日は似た食材で代替品を作ってお弁当として持たせてくれました。少しでも友達と同じような給食を食べられるようにいつも気を使ってくれました。

四年生の秋、ぼくは小麦も卵も除去が解除になりました。栄養士の先生、調理員さん、友だちや先生みんなが喜んでくれて、とてもうれしく思いました。そして今、ぼくはみんなと同じ給食をととてもおいしく食べています。

病院での減感作りよう法の治りようを続けた結果、みんなと同じ給食が食べられるようになって新しい発見もありました。みんなが「とてもおいしい」と言っていたあげパンやカレーを食べられなかったぼくはうらやましそうに見つめているだけでした。しかし、給食が食べられるようになって初めてあげパンを食べた時

「こんなにもおいしい物があるのか」と感動しました。ぼくは、小麦粉が食べられるようになるまで、米が食べ物の全てだと思っていました。でも、アレルギーを克服して、給食を全て食べられるようになってからは、気に入ったものだけではなく、いろいろな物を積極的に食べるようになりました。これも、たくさんメニューを出してくれる給食のおかげです。

食べ物だけでなく、新しいことにチャレンジするようになりました。この春からマーチングを始め、苦手だった音楽を楽しめるようになりました。

ぼくは、給食のおかげで、いろいろな事が出来ました。そして、小麦と卵をくくふくしようとなげられたのも、おいしい献立を考えてくれた栄養士さん、その給食をおいしく作ってくれた調理員さんのおかげです。ありがとございました。ぼくは、後二年で卒業です。その二年で、おいしく給食を食べたいです。